大地の恵み・人・創造たつた　―歴史の川に育てられた村―

■立田村 TATSUTA

立田村は、愛知県の最西端部に位置し、木曽川・長良川を隔てて、岐阜県海津町並びに三重県長島町に接する水郷の里です。
人口8,400人、面積24.67kmあり、その大部分を農地が占めています。本村では、農業は住民生活に密着した地域の基幹産業です。

◆立田村のレンコン

肥沃な湿地を利用したレンコン栽培は古くから盛んで、天保10年（1839年）に刊行された「尾張名所図会」には、レンコンが立田輪中の名産で、味は絶品であると書かれています。さらに、蓮の花が咲く風景は、極楽の池のようだとも書かれています。現在でもレンコンの生産高は全国トップクラスを誇っています。夏には、「赤蓮保存田」で32種類の花はすを見ることができ、「森川花はす田」では、花はすの鑑賞田とあわせてヒマワリなども観賞できるよう整備されています。毎年7月には「蓮見の会」が開催され、この時期になると多くの人が写真撮影などに訪れます。

蓮見の会（森川花はす田）

◆水郷の里

立田村は、木曽・長良・揖斐の、いわゆる木曽三川が合流する辺りにあり、川のおだやかな流れは、自然の力と向き合った、先人の長い歴史を抱いています。

木曽川と長良川は水位が違うため、明治35年船頭平閘門が建設されました。この閘門はパナマ運河とよく似た構造から「小パナマ」と呼ばれる珍しい施設で、平成12年に国の重要文化財に指定されました。その付近は桜の名所にもなっており、毎年春には桜まつりが行われています。

立田朝市

◆未来を支える農村づくり

レンコン栽培以外にも、イチゴやトマトのハウス栽培、カラーやショウブなど花きの栽培も盛んです。また、立田村の新鮮な野菜などを村外の方にも、手に入れていただけるように、毎週日曜日の早朝には、県道佐屋多度線の一角で立田朝市が開かれて賑わいをみせています。

立田村のホームページ　http://www.vill.tatsuta.aichi.jp/